

論文作成要領

第1条 論文は「ハングル(hwp)」（「ハングル97以上）または、MS-Wordで作成する。写真や図などはスキャンして画像ファイルで添付するなど、完全な形の原稿を貼付する。

第2条 編集用紙は190×260とし、上(위)25、下(아래)20、左(왼쪽)20、右(오른쪽)20、ヘッダー(머리말)13、フッター(꼬리말)0、余白(여백)を置き、ヘッダー、ページ数などは編集の過程で挿入する。

第3条 論文の目次は作成せず、その位置に1/2ページ以内の分量の要旨文を英語で作成する。

第4条 要旨の下にキーワード(key word)3～5単語を論文と同じ言語と英語でそれぞれ明記する。

第5条

1) 題目の番号体系は、次の例の通りとする。

例：1. 1.1 1.1.1 1.1.1.1

2) 論文作成の言語基準として韓国語は新明朝(신명조)、日本語は新明朝略字(신명조약자)のフォントを使用し、各部分別のフォントと属性は以下の通りとする。(MS-Wordの場合、以下に準ずる様式とする。)

	文字		行間隔	段落 (整列方式)
	書式	ポイント		
論文題目	太字	15	140	中央揃え
副題	太字	12		
筆者名	普通	11	100	右揃え
Eメールアドレス	普通	8		
要旨	普通	8	140	両端揃え、インデント 2
キーワード	太字	8		
大見出し 1.	太字	12	160	中央揃え
中見出し 1.1	太字	11		
小見出し 1.1.1.	太字	10		
細部見出し 1.1.1.1	太字	10		
本文	普通	10	160	両端揃え
引用文及び例文	普通	9		両端揃え(左余白 3.5、インデントなし)
表/図	題目	普通	140	中央揃え
	内容	普通		中央揃え
脚注内容	普通	8		両端揃え(アウトデント 3.5ch)
参考文献	題目	太字	140	左揃え(インデント 4)
	内容	普通		両端揃え

第6条 引用及び参考文献の出典は参考文献欄に列挙し、必要に応じて脚注を付ける。引用文献が論文の場合は、「ホンギルドン(1997)」のように、筆者名と年度を表記し、単行本の場合は、「ホン・ギルドン(1997:241)」のように出

版年度とページ数を明記する。

第7条 脚注は、本文の内容の補足説明に限る。

第8条

- 1) 本文で言及された論文、著書などに限って参考文献として提示する。
- 2) 参考文献は、筆者名を基準に韓国語、日本語、英語の順とし、それぞれ가나다(ガナダ)、五十音、アルファベットの順に配列する。
- 3) 参考文献は、英語またはローマ字で併記する。(論文作成例を参照すること)
- 4) 同じ著者の参考文献が2つ以上ある場合には、年度順に並べるが、二つ目の文献からは著者名を線で表記する。
- 5) 参考文献が2人以上の共著(共同論文)である場合には、中点で処理する。

例) 宮地宏・サイモン遠藤陸子・小川信夫(1991)

- 6) 参考文献の表記は、筆者名(年度)、論文名(または著書名)、掲載誌巻号、発行所の順とする。
- 7) 参考文献から引用または参考にしたページ数を明記する。
- 8) 論文は「」、単行本は『』で表記する。英語の論文名は보통체(普通体)で、単行本はイタリック体で表記する。
- 9) インターネット検索は、参考文献の一番下に配置する。

例) 検索サイト名(電子資料名) サイトのアドレス(検索日: 2019.03.01.)

第9条 参考文献の英語またはローマ字併記方法

- 1) 参考文献の英語併記は原文(韓国語や日本語)と照らし合わせられるよう、同じ順序で作成する。
- 2) 著者名: 姓と名の順に作成する。
- 3) 共同著者: 最後の著者の姓の前にandをつけて、6人以上の場合は、最初の6人の後に<et al>で終わる。

例) 2人の場合: Koma Tosio and Hanaoka Daigaku。

3人以上の場合: Koma Tosio, Hanaoka Daigaku, and Miyake Zun。

6人以上の場合: A, B, C, D, E, F et al。

- 4) 年度: 括弧に入れる。

5) 学術誌

①<論文題目>: 論文の主題と副題の最初の文字と固有名詞のみを大文字にし、残りは小文字にする。

②<学術誌名>

- 主な単語の最初の文字をすべて大文字にしてイタリック体(斜体)にする。
- Volume番号もイタリック体(斜体)にする。

③<大学研究所名>: 大学の名前を研究所の名前より先に書く。

④<著者.(年度).論文題目.学術誌名.学会名.ページ>の順に作成するが、各部分の末尾にピリオドを打つ。

6) 単行本

①<編者(編)>: <Ed.>と表記する。

②<本のタイトル>

- 本のタイトルはイタリック体(斜体)とし、主題と副題の最初の文字と固有名詞を大文字にし、残りは小文字にする。
- Volume番号もイタリック体(斜体)にする。

③<出版社名>: 例の通り作成する。

例) 白山書店: Hakusan Syoten

ハンギョン大学出版社: Hankyoung University Press

バクム社: Parkmu Press

④<著者.(年度).本のタイトル.出版社.ページ>の順に作成するが、各部分の末尾にピリオドを打つ。

7) ページ: ppを付けない。

8) 翻訳できない論文名や本のタイトルの場合には、ローマ字表記(イタリック体(斜体))で作成した後、[]内に翻訳名を書く。

例) 源氏物語 : Genji Monogatari [The Tale of Genji]

第10条 二人以上の筆者が作成した論文の場合には、第1筆者名を前に記載し、共同筆者名を後に記載する。また、筆者の所属を脚注として処理する際にも、第1筆者の所属を上の方に記載し、共同筆者の所属を下の方に記載して第1筆者と共同筆者の関係を明示しなければならない。



논문 작성 예

【편집용지여백】 <편집용지 190×260> 위 25, 아래 20, 왼쪽 20, 오른쪽 20, 머리말 13, 꼬리말 0

【논문제목】 **日本語 行動要求表現과 모달리티**

(신명조(약자) 15, 진하게, 가운데정렬, 줄간격 140)

** 2줄 비움 **

【필자명】

홍길동*

(신명조(약자) 11, 보통, 오른쪽정렬, 줄간격 140, **필자소속은 각주로 처리**하되 숫자를 붙이지 아니하고, * 기호를 붙임. 필자가 2인 이상인 경우에는 **제1필자를 앞에**, 공동필자를 뒤에 기재함)

【e-메일 주소】

e-mail 주소

(신명조 8, 보통, 오른쪽 정렬, 줄간격 140)

<필자명과 e-mail 주소, 요지 사이는 비우지 않음>

— < Abstract > —

【요지】

작성언어 : 영어

분 량 : 1/2쪽 이내

글자크기 : 신명조(약자) 8, 들여쓰기 2, 양쪽혼합정렬, 줄간격 140

【주제어】

주제어 3~5단어를 [논문 본문과 동일한 언어], [영어]로 각각 명기

(신명조(약자)8, 진하게, 양쪽혼합정렬, 줄간격 140)

** 2줄 비움 **

【큰제목】

1. 序論

(신명조(약자) 12, 진하게, 가운데정렬, 줄간격 140, 들여쓰기 안함)

** 1줄 비움 **

【본 문】

일본어에는 화자가 청자에 대해 어떤 동작을...

(신명조(약자) 10, 양쪽혼합정렬, 줄간격 160)

** 2줄 비움 **

【큰제목】

2. 行動要求表現形式의 種類

(신명조(약자) 12, 진하게, 가운데정렬, 줄간격 140)

** 1줄 비움 **

【작은제목】

2.1 行動要求表現型式 (작은 제목과 본문사이는 페이지 없음)

(신명조(약자) 11, 진하게, 왼쪽정렬, 2칸 들여쓰기, 줄간격 140)

【인용문헌표시】

상대 일본어의 모음구조에 대해 有坂秀世(1957)<논문>는.....라고 하였다.

한편 金田一京助(1974: 241)<단행본>는 라고 하여 다른 견해를 보이고 있다.
상대일본어의 모습과 자음의 배열순서는……

【인용문】

(신명조 9, 줄간격 160, 왼쪽 6ch, 들여쓰기 안함)

【각 주】

* ○○대학교(소속) 교수(직급), 일본근대문학(전공)
1) 이에 대해 有坂秀世(1957)는 다음과 같이 논하고 있다.

(신명조(약자) 8, 양쪽혼합정렬, 줄간격 140, 왼쪽 4ch, 내어쓰기 3.5ch)

** 2줄 비움 **

5. 結論

** 1줄 비움 **

이상과 같이 일본어 행동요구표현과 모달리티에 대하여…

** 2줄 비움 **

【참고문헌 제목】

◀ 참고문헌 ▶

(신명조(약자) 12, 진하게, 왼쪽정렬, 5칸 들여쓰기, 줄간격 140)

** 1줄 비움 **

최길성 (1991) 「北陸의 民俗」 『일본학(10)』 동국대 일본학연구소 pp.262-263
浅井茂人 (1989) 『越中の渡来民』 白山書店 p.75
勝田至 編 (2012) 『日本葬制史』 吉川弘文館 pp.253-258
駒敏郎·花岡大学(1980) 『若狭. 越前の伝説 <日本の伝説(46)>』 角川書店 p.117
中西進 (2011) 『源氏物語』 ナツメ社 pp.345-365

(신명조(약자) 8, 양쪽혼합정렬, 줄간격 140)

** 1줄 비움 **

◀ REFERENCES ▶

(신명조(약자) 12, 진하게, 왼쪽정렬, 5칸 들여쓰기, 줄간격 140)

** 1줄 비움 **

Choi Gil-Sung. (1991). Folk customs of Hokuriku. *Japanese Studies, Vol 10*.
University of Dongguk, Japan Institute. 262-263.
Asai Sigeto. (1989). *Brought over people of Eetchu*. Hakusan Syoten. 75.
Katsuta Itaru (Ed.). (2012) *History of funeral system*. Yoshikawa Kobunkan
Koma Tosio and Hanaoka Daigaku. (1980). *Legend of Echizen. Wakasa*.
Kadogawa Syoten. 117.
Nakanisi Susumu. (2011). *Genji Monogatari* [The Tale of Genji] Natsumesha.
345-365.

(신명조(약자) 8, 양쪽혼합정렬, 줄간격 140)

- * 본문에 언급된 논문, 저서만 제시.
- * 필자명을 기준으로 국문, 일문, 영문순으로 하고, 각각의 언어의 자모순으로 배열.
- * 동일 저자의 문헌이 2개 이상일 때에는 연도별로 선을 그어 표기.
- * 2인 이상 공저(공동논문)의 경우, 중간 방점 처리(예 : 宮地 宏サイモン遠藤睦子小川信夫(1991)).
- * 필자명(연도) 논문명(또는 저서명), 게재지 권 호, 발행처의 순서로 배열.
- * 인용 또는 참고한 쪽수를 명기.

- ◆ 논문 접수일 : 편집이사 기재
- ◆ 논문 수정일 : 편집이사 기재
- ◆ 논문 게재확정일 : 편집이사 기재

【필자 인적사항】

논문제목 : 국문 영문

필자명 : 국문 영문

근무처 : 직급 : 전공분야 :

주소 : (우편번호)

전화번호 : 휴대전화:

E메일 :

발표일 : 발표장소 :

투고일 :

☐

☐